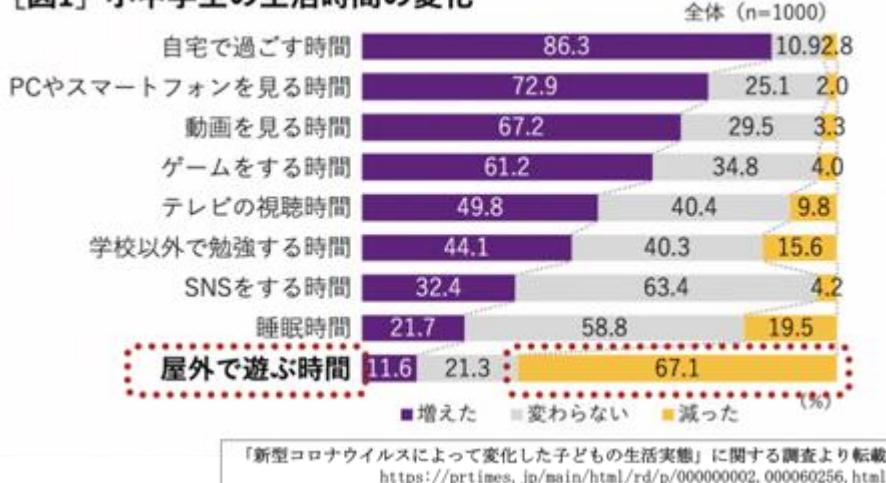


事業計画書

①団体名	特定非営利活動法人こうのさと
②事業名	遊びの中で防災スキルと非認知能力を身につける。親子防災リーダープロジェクト
③テーマ区分	番号：1 地域防災活動の推進
④補助回数	*同一事業における補助回数（年数）について、いずれかにチェック <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目
<p>近年、共働き世帯の増加や、3つの間（空間・仲間・時間）の不足から子どもたちの外遊び体験の確保が難しくなっている。特にコロナ禍以降、子どもたちの外で遊ぶ時間が急激に減少し、2020年の平均ではおよそ35分と、2019年の平均61分に比べて極端に短くなっている。^{※1}</p>	

[図1] 小中学生の生活時間の変化



⑤現状及び課題

また、スマホやタブレットの普及と共にスクリーンタイムが増加し、子どもたちの生活習慣が劇的に変化するとともに室内遊び、一人遊び、遊びの画一化（創造性の欠如）の傾向に拍車がかかっている。

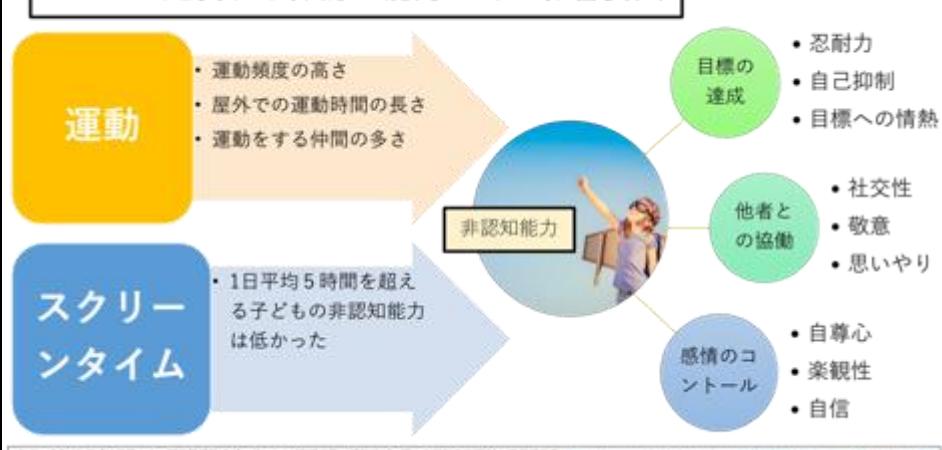


スポーツ庁委託による学校法人順天堂の調査^{※2}によると子どもの外遊びの経験や一緒に遊ぶ友人の数の多さは、自制心、達成力、協働性などの非認知能力にポジティブな関連があることがわかつており、スクリーンタイムの増加はネガティブな関連があること

が示唆されている。

今まで台風の被害や地震災害の少なかった岡山県でも2018年には、西日本豪雨の水害に見舞われ、南海トラフ地震の発生も懸念さ

OECDが定義する非認知能力とその影響要因



れている昨今の状況である。

電気、ガス、水道、インターネットなど日常使用できるインフラが欠如する被災状況では、身近にある資源で暖を取ったり、食べ物を調理したり、怪我の応急処置などを行わねばならない。一般的な防災スキルが必要になるととともに、上記のような非認知能力が重要になることは自明であり、令和3年内閣府発表の「防災教育新時代の実現のための提言について」^{※3}の中でも非認知能力の育成が課題に挙げられている。

内閣府資料「防災教育新時代の実現のための提言について」において記載されている非認知能力の例



『防災教育新時代の実現のための提言について』より作成
<https://www.mext.go.jp/kaigisiryo/content/000121141.pdf>

申請者は、2011年3月の東日本大震災発災2,3週間後、岡山大学病院から緊急医療支援に看護師として派遣された経験がある。岩手県の被害の大きかった陸前高田市、大船渡市で活動した。その際、震災後の二次災害の救急対応もしたが、搬送された方に一酸化炭素中毒が多かったことを聞いて驚いた。

昔は、炭を炊いて暖を取ることが一般的であったが、エアコンの普及、家の断熱性の高まりなどで使用することがなくなり、炭を炊いた経験のない人が多かったであろう。換気が必要なことに気がつかず室内、もしくは車内で一酸化炭素が充満して意識を失い搬送されたケースがあった。核家族化が進み世代間の交流が失われたこと、インフラの整った生活の中で、野外の体験が失われた

	<p>ことなどがその理由として挙げられる。こういった点からも体験を通じた学びの必要性を強く感じている。</p> <p>正解が決まっている与えられた問題を解くなど、学業の評価や試験の成績が示す認知能力だけではなく、自らが問題に気づき資源を見つけて解決する力、問題を抱えたままでも生き抜く諦めない力、周囲の人たちと協力する力などがそれに当たるだろう。</p> <p>3つの間（空間・仲間・時間）の不足によって、子どもたちから体験が失われ、管理された安全な日常の中では生きる力を養う機会も少なくなっているのではないだろうか。</p> <p>こういった環境の変化や防災の知識やスキルは、子どもを取り巻く大人の考え方方が大きく影響することから、子どもたちだけではなく親も理解して、家族で取り組んでいくことが必要となる。</p> <p>また、子どもたちが参加することで、子ども同士が仲良くなり、初めて会う親同士も、子を介して関係性を築きやすくなることも見込まれる。</p> <p>本事業を通じて、防災や災害時に限られた環境の中でも周囲の人と協力しながら、被害を最小に抑え、生きることを諦めない希望を持った親子を増やし、共に頼り合い助け合えるコミュニティをつくっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考情報 <p>※1 「新型コロナウイルスによって変化した子どもの生活実態」に関する調査 - 近視予防事務局フォーラム https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000002.000060256.html</p> <p>※2 令和4年度「幼児期からの運動習慣形成プロジェクト（保護者等の運動遊びに関する行動変容調査）」事業報告書 - 学校法人順天堂 https://www.mext.go.jp/sports/content/20230414-spt_oiripara-00002921_11.pdf</p> <p>※3 防災教育新時代の実現のための提言について - 内閣府 https://www.mext.go.jp/kaigisiryo/content/000121141.pdf</p>
⑥事業目的	防災知識や災害発生時後に必要となるスキルについて、体験を通じて学んだ親子を増やし、災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立てる人を育成し、災害に対応しやすい地域をつくること。
⑦事業内容	<p>※備中県民局補助対象事業について、位置づけ（狙い）、概要、受益者（対象者）、実施地域、実施方法などを記載すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・位置付け（狙い） 「楽しさ」を盛り込んだ防災教育と親子で集える場づくりを行い頼りあい助け合える地域コミュニティをつくっていく。また、子どもの遊びの中に、防災や発災時の生きる力となる非認知能力を高めるきっかけがあることを明らかにし、子どもたちの主体性をより尊重する社会づくりの起点とする。 ・概要 火や水を使って遊べる冒険遊び場で、親子で防災や災害後に役立つ知識やスキルについて体験を通じて学ぶ。 ・受益者（対象者） 近隣の未就学児童（6歳～）、小中学生の子どもとその家族。 ・実施地域

	<p>倉敷市玉島</p> <p>・実施方法 当法人で管理しているスコレーパーク、約3,000m²の敷地にて、冒険遊び場プレーパークを定期的に開催。その中で防災や災害後に役立つ体験を通じて学ぶ講座やワークショップを開催する。告知はインターネット、SNSなどを通じて対象者に呼びかけ募集する。参加された方にアンケートを行い防災意識の変化や子どもの非認知能力への影響について確認してまとめる。</p> <p>事業項目1. 火や水、工具を使って遊べる冒険遊び場プレーパークの定期開催 ・岡山市子どもセンターと協力し定期的に開催する。夏休み期間中は開催頻度を増やす。年間を通じて6回開催を予定。(6月、8月中に2回、10月、12月、1月)</p> <p>事業項目2. 遊びや行事の中で防災スキルを身につける講座やワークショップ&上映会 ※以下、現段階で予定できるもの。ワークショップ内でテーマとなる防災グッズなども紹介していく。審査委員の意見をお聞きしながら選択、詳細は今後、詰めていく。</p> <p>【予定中の講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月 防災コンサルタントによるアウトドア防災教室 ・6月 長さに挑戦！流しそうめん台づくりワークショップ ・8月 海水からの塩炊きワークショップ ・9月 長期プロジェクト、小屋づくりワークショップ ・10月 竹のブランコ、ジャングルジム、滑り台、竹の遊具づくり ・12月 羽釜で野外炊飯、焚き火で焼き芋づくり、消化器の使い方 ・1月 災害時のトイレ、コンポストトイレづくりワークショップ <p>*天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応 規模を縮小しての開催、オンライン講座やハンドブックの制作、配布などで対応する。</p>
⑧事業の条件及びアピールポイント	<p>先進性、先駆性、独創性 子どもの遊びの中で、防災や災害時に必要となるスキルや非認知能力（資質）が身に付くことの周知を拡げられる。</p> <p>備中地域への波及効果 表面的な防災グッズの選び方、使い方だけではなく、災害時に重要な自制心、達成力、協働性などの資質を子どもの頃から養う方法を試験的に実施でき、その効果を評価できる。</p> <p>その他、団体の持つ専門性やノウハウ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当法人は、子どもたちの主体性を育むオルタナティブスクールを運営しており、一般的な教える教育、管理型の教育とは異なる指導の方法やノウハウを培っている。 ・本事業の実施責任者である片岡は、2011年の東日本大震災にて、看護師として岡山大学病院から緊急医療支援活動に派遣され、被災2～3週間後の陸前高田市、大船渡市で活動した。2007年から2009年の間、青年海外協力隊として電気、ガス、水道などのインフラが整っていない発展途上国での貧困地域で2年間母子保健活動に従事した経験もある。 ・ワークショップや外部調整の担当である十川は、2018年の西日本豪雨の際、勤務していた小学校が被災地域の避難所となつたことで避難所運営に携わり、在籍する児童とともに、避難者の受け入れや物資の管理にあたった経験がある。

	<p>・当法人の支持者、サービス利用者にも今回の企画に関する需要があり、参加が見込まれる。</p>																					
⑨今年度の事業による直接の結果（アウトプット）及びその評価指標・評価方法 ※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載	<p>・事業項目1. 火や水、工具を使って遊べる冒険遊び場プレーパークの定期開催 年間で定期開催する冒険遊び場プレーパークの来場者数で評価する。岡山市ではプレーパークが盛んに開催されているが、倉敷市での開催は頻度が少なく、地域の需要の評価にもつなげていく。また、過疎の農村は民家が密集しておらず子どもの声が近所迷惑になりにくい環境でもあり、子育てしやすい地域としてブランディングにつなげることも可能だと考える。</p> <p>・事業項目2. 遊びや行事の中で防災スキルを身につける講座やワークショップ&上映会 ワークショップや講座、上映会の参加者数を評価基準とする。それぞれにアンケートを依頼、回収し、防災意識や災害後に必要なスキル、自己効力感の変化などを評価できるようを行う。</p>																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th><th>評価方法</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. プレーパーク 参加者数</td><td>延べ人数</td><td>360人</td></tr> <tr> <td>2. ワークショッ プ 参加者数</td><td>延べ人数</td><td>240人</td></tr> </tbody> </table>	評価指標	評価方法	目標	1. プレーパーク 参加者数	延べ人数	360人	2. ワークショッ プ 参加者数	延べ人数	240人												
評価指標	評価方法	目標																				
1. プレーパーク 参加者数	延べ人数	360人																				
2. ワークショッ プ 参加者数	延べ人数	240人																				
⑩今年度に期待される成果・効果（短期アウトカム）及びその評価指標・評価方法 ※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記	<p>事業参加者 子どもの非認知能力や各家庭の防災意識が高まり、防災の準備が行えるようになる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th><th>評価方法</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防災スキルの獲得段階、子どもの非認知能力育成に関わる生活習慣の変化、参加親子の防災意識の変化がわかる。</td><td>参加者アンケート、講座内での技術チェック</td><td>防災講座内での確認、プレーパークやワークショップ参加者から100件の回答を得る。</td></tr> </tbody> </table> <p>事業実施団体 オルタナティブスクール竹林のスコレーやスコレーパークの魅力の向上と地域住民とのより良い関係作り、団体の周知がより広まる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th><th>評価方法</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数</td><td>利用者人数</td><td>30名</td></tr> <tr> <td>Instagramフォロワー数</td><td>フォロワー人数</td><td>2,000名</td></tr> </tbody> </table> <p>備中地域 子どもの遊び場の大切さの理解が進み、親子で学ぶ防災や体験を通じて学ぶワークショップの需要が喚起され地域の防災意識がさらに高まる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th><th>評価方法</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防災意識について変化を感じた参加者の割合等、開催手法と報告書の共有</td><td>参加者アンケート、共有団体数</td><td>参加者の防災意識の向上が見える。 10団体と共有できる</td></tr> </tbody> </table>	評価指標	評価方法	目標	防災スキルの獲得段階、子どもの非認知能力育成に関わる生活習慣の変化、参加親子の防災意識の変化がわかる。	参加者アンケート、講座内での技術チェック	防災講座内での確認、プレーパークやワークショップ参加者から100件の回答を得る。	評価指標	評価方法	目標	利用者数	利用者人数	30名	Instagramフォロワー数	フォロワー人数	2,000名	評価指標	評価方法	目標	防災意識について変化を感じた参加者の割合等、開催手法と報告書の共有	参加者アンケート、共有団体数	参加者の防災意識の向上が見える。 10団体と共有できる
評価指標	評価方法	目標																				
防災スキルの獲得段階、子どもの非認知能力育成に関わる生活習慣の変化、参加親子の防災意識の変化がわかる。	参加者アンケート、講座内での技術チェック	防災講座内での確認、プレーパークやワークショップ参加者から100件の回答を得る。																				
評価指標	評価方法	目標																				
利用者数	利用者人数	30名																				
Instagramフォロワー数	フォロワー人数	2,000名																				
評価指標	評価方法	目標																				
防災意識について変化を感じた参加者の割合等、開催手法と報告書の共有	参加者アンケート、共有団体数	参加者の防災意識の向上が見える。 10団体と共有できる																				
⑪将来的に期待される成果・効	<p>事業参加者 子どもの主体性や、遊び場の大切さが理解され、子どもたちが自</p>																					

果（中・長期アトム） ※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載	分の責任で自由に遊べる場が増え、外遊びや仲間と遊ぶ機会が増えることで、非認知能力を高められる。身を守るために行動できる人が増加することで、地域防災力が向上する。
	スコレーパークを用いた多様な体験を提供することで、団体のブランディングが行え、より広く活動の周知につながる。
	備中地域 他の備中地域でも目的を共有する行事が開催され地域活性化防災意識の高まりが促進される。地域活性化、及び防災意識の高まりが促進される。
	事業参加者 子どもの主体性や、遊び場の大切さが理解され、子どもたちが自分の責任で自由に遊べる場が増え、外遊びや仲間と遊ぶ機会が増えることで、非認知能力を高められる。身を守るために行動できる人が増加することで、地域防災力が向上する。
⑫事業継続化に向けた取組及び事業展開の予定（資金確保の見通し等）	<ul style="list-style-type: none"> 地元企業へ周知を広げ協賛を増やす。 一般の方へ活動を周知して寄付者を増やす。 流しそうめん台や竹の遊具の設置などを収益化。 ワークショップや講座を実施、改善して今後有料で開催する。

<記入上の注意事項>

- 各項目は、簡潔かつ明瞭に記入してください。
- 「④補助回数」欄の2回目は、前年度に採択された事業を今年度も継続して実施する場合に選択ができます。
- 「⑤現状及び課題」欄は、事業実施の要因となる地域課題や問題点、社会的背景等について記入してください。なお、根拠となる統計データや当事者の声などがあれば、それも示してください。
- 「⑥事業目的」欄は、事業を通じて実現したいこと、目指す将来的な姿（社会、経済、生活、環境等）について、「⑤現状及び課題」、受益者（対象者）等を踏まえて記入してください。
- 「⑦事業内容」欄は、課題解決や「⑥事業目的」における位置づけ（狙い）とともに、概要、受益者（対象者）、実施地域、実施方法などを事業項目ごとに具体的に記入してください。また、天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応（代替案の検討、事業縮小、事業中止等）についても併せて記入してください。なお、事業が複数の場合は、それぞれの事業ごとに内容を記入してください。
- 「⑧事業の条件及びアピールポイント」欄は、事業条件としている広域性又は先進性、先駆性、団体の持つ専門性やノウハウ等のアピールポイントについて具体的に記入してください。なお、先進性、先駆性は、他地域での先進例や成功例等もあれば、それも参考として記入してください。
- 「⑨今年度の事業による直接の結果（アウトプット）及びその評価指標・評価方法」欄は今年度の活動計画及びその評価指標・評価方法を記入してください。「⑩今年度に期待される成果・効果（短期アトム）及びその評価指標・評価方法」欄は事業実施により得られる今年度の利益や変化及びその評価指標・評価方法について記入し、「⑪将来的に期待される成果・効果（中・長期アトム）」欄は、事業を継続して行うことで、将来的に得られる利益や変化について記入してください。なお、事業が複数の場合には、⑨、⑩、⑪は事業ごとに分けて記入してください。
- 「⑫事業継続化に向けた取組及び事業展開の予定（資金確保の見通し等）」欄は、「⑥事業目的」や「⑪将来的に期待される成果・効果（中・長期アトム）」を踏まえ、翌年度以降に実施する予定の事業内容、組織体制、財源確保の手法、事業継続の工夫等について記入してください。
- 記入箇所が不足する場合は、必要に応じて行挿入等を行ってください。